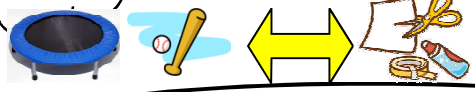
思い出の公園を描く！～体験したことを造形表現する～

小出特別支援学校　小学部（1～3年）　杉本周栄　石川信也　小山光　宮嶋枝里

児童の実態

遊び大好き！
体育の野球、
やりた～い！

図工の細かい作業は
苦手だなぁ。



児童の
造形活動
への意欲を
引き出し
たい！

目指す姿

児童が能動的に造形活動に向かう姿
～直接体験と造形表現を繰り返してイメージをもつ～

手立て・実際

児童の意識の流れをつくり出す単元構成

STEP　1-1
体験
（イメージをつくる）

直接体験からの造形活動

児童にとって身近な題材の設定

①やいろの森公園で遊ぶ

好きな遊具を思い切り楽しむ

写真やビデオでたくさん記録

STEP　1-2
表現
（イメージを表す）

②写真・ビデオで公園のイメージを想起する

③好きな遊具の絵を選ぶ

遊具＝
一番の楽しい
思い出

④指定した用具で色を塗る

⑤好きな用具で色を塗る

用具を体験

用具の使い方の指導

⑥壁に貼る

STEP　2-1
体験
（イメージを膨らませる）

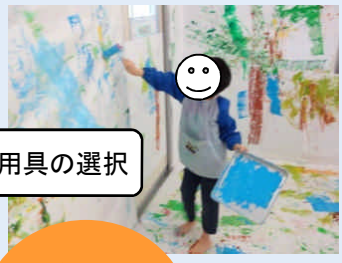
直接体験からの造形活動

草や木の
色、におい、
手触りを確認

公園を思い出す

STEP　2-2
表現
（イメージを爆発させる）

⑨公園に足りないものを
好きな用具で描き足す



用具の選択

自由に
用具を使える
環境設定

大きな
キャンバスの
設定

⑩他の先生に見せて
褒めてもらう

成果と課題

〇児童の意識の流れに沿った単元構成が有効だったため、公園の楽しいイメージを想起しながら、意欲をもって造形活動ができた。
〇何種類かの用具を体験し、手でぬたくる表現から用具を使って表現する方法を学んだ。
〇単元の終末で他の先生方に見てもらい作品を称賛してもらったことは、今後の図工への意欲につながる。
△本単元で見られた意欲を継続させて、将来、造形活動に関連した余暇に繋がるように働きかけていきたい。
△今後の授業では、用具の使い方をさらに詳しく指導して、技能を高めていきたい。
その際、個々の児童の実態に合わせた用具の工夫なども手立てとして考えていきたい。